

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山 大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、全ての人々が真の幸福をつかむ為に、総本山第67世日顕上人により昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には新築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

講中のみなさまへ 「自分の大切な心を育てよう」

人は、自分を褒めてくれる人を喜ぶ。しかし本当は、自分を怒ってくれる人、叱ってくれる人の方が慈悲深い。今から千年以上前の話である。加賀の国のある人が、自分の子供を比叡山延暦寺に出家させた。月日が経ち、子供は十三歳の時、修行の厳しさに耐えきれず、お寺を抜け出して加賀の家に帰った。これに父はひどく怒り、梶(つき)の木の弓(ゆみ)で、我が子を何度も打ちつけた。「何の違(いとま)があって家に帰るや。比叡山の修行はお前のため、また多くの人を救うためなり。すぐに戻られよ」と。子供は、無情なるは父、憎きは梶の木の弓、父を無慈悲な親だと胸におさめ修行に勤めた。この少年は後に比叡山の第十五代座主、延昌(えんしょう)となる。大聖人は延昌について「終には修学増進して自身得脱をきわめ、又人を利益する身となり」(御書 1360 頁)と仰せである。延昌はのちに、自身の今があることは、梶の弓をもって我を打った父あつての故と、梶の木で塔婆をつくり、父の追善供養をなしたのであった(同頁)。勤行と唱題は真実の恩に気づかせてくださる。そして素直な自分となり「徳」を表す。自身の心を育てよう。



- お花作り -

信仰することに反対の方へ 「人生に必要な信仰はここにあり」

「信仰は盲信だ」と言う人があります。盲信とは、わけも分からず、かたくなに信じ込み、また物事を理論的に考えず、思索しない姿勢といえます。確かに世の中には非現実的で、ろくに教義も持たないような宗教があります。しかし、「信仰はすべて盲信」とひとからげに考えることは、信仰に対する偏見であり、これも一つの盲信となるのではないのでしょうか。自らの物の見方、考え方に大きな影響を与え、さらには人生の幸・不幸に密接な関係をもつのが宗教です。ここで大切なことは、その宗教が、観念的、独善的であるか、また自己満足的なものかを見極める必要があります。日蓮大聖人は、「正しい道理」、「根拠となる経典」、「世の現実の姿」の三つを法理の骨格とし、幸・不幸の原因と結果を仏法により究明されました。仏法は宇宙法界の真理を明らかに説くものです。日蓮大聖人は宗教の正邪、浅深を明らかにされ、真実の仏の悟りを説かれました。あなたも、これまでの宗教に対する概念を捨て、確たる法理に裏づけされた仏法の信仰を体験し、幸福の奥行きを広げて頂きたいと願うばかりです。



日蓮正宗 慧光山 法遍寺

〒488-0881 愛知県尾張旭市城山町三ツ池 6075-1
TEL: 0561-54-9226
E-mail: contact@hohenji.net
<https://www.hohenji.net>

